

柏原市スタディ・アフター・スクール事業

学科・専攻

関西福祉科学大学
心理科学科・教育学科

担当教員

心理科学科 宇恵 弘
教育学科 吉岡 尚孝、折口 量祐

連携先

柏原市教育委員会

プログラム内容

児童の学力向上を図るためには、学校での授業改善とともに、家庭学習の定着が求められる。そのため、関西福祉科学大学と大阪教育大学の学生、さらに地域ボランティアのサポートにより、柏原市内の小学校において、平日の放課後に学習支援活動（児童が持参した宿題や、柏原市教委が準備した補助課題（通称iブリ）の実施、その他音読や読書など）を行っている。

本学からは、心理科学科と教育学科の学生が参加している。市内の柏原小学校、玉手小学校、旭ヶ丘小学校、堅下南小学校にて各校週に一日活動している。

成果・考察

火曜日に柏原小学校、水曜日に旭ヶ丘小学校と堅下南小学校、金曜日に玉手小学校にて活動を実施した。

柏原小学校では3・4年生の児童が前期（5月21日から7月2日）25名、後期（10月15日から2月18日）10名、旭ヶ丘小学校では4・5・6年生の児童が前期（6月5日から7月10日）10名、後期（10月23日から2月5日）10名、堅下南小学校では3・4年生の児童が前期（6月12日から7月10日）4名、後期（10月23日から2月12日）4名、玉手小学校では3・4年生の児童が前期（6月14日から7月5日）4名、後期（9月8日から1月31日）4名それぞれ参加した。

今年度も各校とも両学科の混成チームを組成し協力して活動に臨んだ。ボランティアとして参加した学生（学生指導員）にとっては、児童と接することにより、大学で学修した内容が経験をもって体得することができた。一方、プログラムに参加している児童にとっては、学習習慣と学習内容の定着をはかることができた。

前期の活動では学生の参加者が多かったが、後期は参加者が少なく望ましい運営ができなかった。次年度に向けて、活動への参加者確保に工夫が必要である。



関西福祉科学大学

心理科学科

宇恵 弘 教授

本活動は、参加学生に対して児童と触れ合うよい機会を提供でき、参加児童にとっても日頃接する機会の少ない大学生と触れ合うことでお互いにコミュニケーションの能力の向上が見込まれると考えています。

心理科学を専攻している学生なら、発達心理学や教育心理学の学修が活かせると考えられ、教育学を専攻している学生なら、指導法の学修が活かせると考えています。さらに、教育学科の学生であれば、教員採用試験にも役立つ知識等を得ることができるでしょう。

毎週の活動を進める中で、仲間との協力、企画力、教育力の向上が望めると考えています。

関西福祉科学大学

心理科学科 4年

後藤 尽平

学生指導員の指示通りに動いてもらえない場合もあり大変な面もありましたが、活動の回数が増えるに従い児童とのこころの距離感も近くなり、最終の活動の時には参加児童から次年度も参加したいと言ってもらえ、喜びとともに達成感を得ることができました。

児童との関わりが有意義であったのはもちろんですが、活動のリーダーとしての経験も今後に生かせると感じています。